

令和3年度 徳島県農林水産基本計画レポート (概要版)



令和4年9月
徳島県農林水産部

基本戦略Ⅰ ニューノーマル（新しい日常）への対応

①しなやかな「とくしまブランド」の展開

- ・WITHコロナ・アフターコロナに対応するため、ECサイトを活用した販売を支援するとともに、デジタル技術を活用した販売プロモーションを実施
- ・「とくしまブランド推進機構」と連携し、市場や実需者の求めに応じたマーケットイン型の産地を育成
- ・TurnTableでのマルシェの通年開催や県産食材を活用したメニューの提供など、様々な企画を展開
- ・徳島すぎ製品の増産を支援するとともに動画配信やSNSを利用し魅力を発信



TurnTableのマルシェ開催

○とくしまブランド推進機構の関与した販売金額	R元 26.6億円	⇒	R3 43億円
○「TurnTable」の利用者数	R元 3.4万人	⇒	R3 5.8万人
○県産材の県外出荷量	R元 26.1万m ³	⇒	R3 26.4万m ³

②選ばれる6次産業化の促進

- ・農林漁業者の6次産業化における課題解決を図る「六次産業化サポートセンター」での相談対応や「6次産業化プランナー」の派遣、展示商談会への出展・ECサイトでの販売を支援
- ・農業大学校において6次産業化人材の育成を図るとともに六次産業化研究施設を活用し6次産業化に取り組む事業者の商品開発を支援



令和4年2月幕張メッセでの展示商談会

○戦略的な販路開拓のための展示会・商談会への出展数(累計)	R元 386出展	⇒	R3 486出展
○農工商連携等による6次産業化商品開発事業数(累計)	R元 352件	⇒	R3 518件

③戦略的な海外展開

- ・事業者の代わりに海外で県産品を売り込む「現地特派員」による販路開拓、越境ECサイトへの出店や国内での商談会、展示会への出展を支援
- ・輸出産地の育成のため、海外ニーズや規制に対応した生産・加工体制の構築支援
- ・台湾と県内企業によるWEB商談会の実施や県産木材製品の輸出を促進



令和3年11月5日～15日
シンガポール「ジャパンフェア」

○農林水産物等輸出金額	R元 14.2億円	⇒	R3 29.9億円
○畜産物の海外輸出货量	R元 75t	⇒	R3 289t
○県産材の海外輸出货量	R元 105百万円	⇒	R3 277百万円

④移住定住に向けた都市農村交流の推進

- ・地域住民と農山漁村（ふるさと）協働パートナーの協働活動や農泊、地域資源「むらのたから」のPRによる都市と農山漁村の交流を促進
- ・「中山間地域農村活性化総合整備事業」により中山間地域の活性化を図るため、農村生活環境を整備



とくしま農山漁村(ふるさと)応援し隊

○農山漁村（ふるさと）協働パートナーの参加人数(累計)	R元 4,323人	⇒	R3 4,811人
○「未来ある農山漁村づくり」に向けたビジョンの作成・実践地区数(累計)	R元 15地区	⇒	R3 19地区

①自然災害や家畜伝染病等への対応

- ・災害に備えて土地改良施設や農業用ため池，漁港海岸施設，緊急輸送道路を補完する農林道等の耐震化・整備
- ・大規模災害からの早期事業再開を目指す農業版BCPの実効性向上，土地改良区BCP，漁業版BCPの策定を支援
- ・山地災害による被害を防止するため，治山施設や森林整備，「山地防災ヘルパー」と連携し危険箇所のパトロールを実施
- ・家畜伝染病の発生予防対策への支援や，防疫演習等により防疫体制を強化



家畜伝染病防疫研修(豚熱)

○土地改良施設の耐震化着手施設数(累計)	R元	7施設	⇒	R3	13施設
○漁港海岸の地震・津波対策の実施箇所数(累計)	R元	5箇所	⇒	R3	7箇所
○山地防災ヘルパーの認定者数(累計)	R元	183人	⇒	R3	203人

②強靱な生産基盤の整備

- ・農地中間管理機構を活用したほ場整備，集落座談会の実施等，人・農地プランの事業推進等による担い手への農地集積を推進
- ・基幹的水利施設の長寿命化や基幹農道，林内路網の整備により，生産基盤を強化
- ・漁港海岸施設の老朽化対策や稚魚を育成する藻場の造成等により，生産基盤の保全及び生産力の高い漁場づくりを推進



オーバーホールされた排水ポンプ
(堀江排水機場)

○「農地中間管理機構」と連携した農地整備面積(累計)	R元	50ha	⇒	R3	132ha
○老朽化対策に着手した基幹的水利施設数(累計)	R元	40施設	⇒	R3	61施設
○林内路網開設延長(R元年からの累計)	R元	168km	⇒	R3	469km
○藻場造成箇所数(累計)	R元	25箇所	⇒	R3	28箇所

③水田・園芸農業の振興

- ・主食用米「あきさかり」や地酒ブランド「阿波十割」の量販店・酒蔵イベントでの販売・出展等によるPR活動を展開
- ・「経営所得安定対策」を活用した飼料用米等の新規需要米の作付け推進や野菜産地の育成
- ・園芸・果樹産地の維持発展のため，農福連携等による労力補完及び環境制御技術等の栽培技術の実証導入により，産地リノベーションを推進
- ・県産花きの認知度向上及び消費拡大を図るため，展示品評会や「フラワーフェスティバル」を開催
- ・藍の生産振興を図るため，「タデ藍専用収穫機」の導入を支援
- ・「農薬散布ドローン」等の実証や「自動走行トラクター」，「環境制御システム」の導入を支援



フラワーフェスティバル
花き展示(道の駅いたの)



農薬散布ドローン

○高温耐性品種「あきさかり」の作付面積	R元	1,740ha	⇒	R3	2,830ha
○産地リノベーションを実施した園芸産地における生産額	R元	45億円	⇒	R3	55億円
○タデ藍の収穫面積	R元	- ha	⇒	R3	24ha

④畜産業の振興

- ・「阿波尾鶏」の地鶏出荷羽数連続日本一達成の取組継続及び「とくしま三ツ星ビーフ」の欧米輸出の実現による更なるブランド化を促進
- ・規模拡大を図る畜産農家に対し、堆肥調整機械・施設の導入を支援するとともに、環境対策について指導を実施
- ・生産コスト低減や労働生産性向上のため、畜産クラスター事業による自給飼料生産、堆肥の高品質化の機械導入を支援



とくしま三ツ星ビーフ欧州初輸出入式

○「阿波尾鶏」の地鶏出荷羽数全国順位	R元 1位	⇒	R3 1位
○三ツ星ビーフ認定生産者数(累計)	R元 2件	⇒	R3 4件
○グローバル化に対応した経営転換モデル数(累計)	R元 10モデル	⇒	R3 14モデル

⑤林業・木材産業の振興

- ・高性能林業機械の導入や路網整備の推進及び県産木材製品の付加価値を高める人工乾燥機等の導入を支援
- ・伐採後の造林を着実に実施するため、通年植栽が可能な「コンテナ苗」の生産を推進
- ・民間での県産木材利用を推進するため、「徳島すぎの家づくり協力店」に普及啓発費を助成
- ・木育とにぎわいの拠点「徳島木のおもちゃ美術館」オープン(令和3年10月)



徳島木のおもちゃ美術館

○県産材の生産量	R元 42万m ³	⇒	R3 41万m ³
○コンテナ苗による人工造林面積	R元 114ha	⇒	R3 178ha
○徳島木のおもちゃ美術館の開設	R元 -	⇒	R3 開設

⑥水産業の振興

- ・アワビより高水温を好み、県南部の重要資源である「トコブシ」の種苗生産・出荷を開始
- ・県産水産物の学校給食への食材提供や漁業関係者の「インターネット販売」、飲食店等での「消費拡大キャンペーン」を支援
- ・養殖海藻の色落ち対策として、本県独自の「施肥技術」の実用化に向け、現場実証試験を実施
- ・水温、塩分情報等をリアルタイムで配信するシステムの機能向上等により「スマート水産業」の現場実装を推進



もっと食べて応援！
徳島の水産物キャンペーン

○漁業生産量	R元 20,165t	⇒	R3 20,300 t
○トコブシ種苗放流数 (R元年からの累計)	R元 -千個	⇒	R3 184千個
○「徳島の水産物キャンペーン」参加店舗数(累計)	R元 190店舗	⇒	R3 293店舗

①スマート農林水産業の実装

- ・農林水3分野の「サイエンスゾーン」を拠点とし、産学官が連携した研究を実施、新しい価値と需要を創出する品種や技術を開発
- ・AIやIoTを活用した「スマート技術」の開発及び、実証試験や実演会により生産現場への技術を普及



高水温耐性ワカメ品種

○イノベーションにより新たに創出された農林水産物生産額	R元 - 億円	⇒	R3	95億円
○スマート化技術導入経営体数(累計)	R元 33経営体	⇒	R3	63経営体
○農林水産物の新品種・新技術の開発・導入数(累計)	R元 24件	⇒	R3	39件

②農業・畜産業の多様な人材育成・確保

- ・「とくしま農林水産未来人材スクール」により、農林水3分野の一元的な就業相談を実施
- ・農業大学校での生産技術や六次産業化における人材育成及び、スマート技術を活用した実習を実施
- ・「アグリビジネスアカデミー」によるリカレント教育を実施
- ・女性農業者支援や農福連携により、多様な担い手づくりを推進
- ・家畜人工授精に関する講習会を実施し、畜産を支える担い手を育成



施設園芸アカデミー

○新規就農者数(累計)	R元 882人	⇒	R3	1,197人
○農業リカレント教育修了者数(累計)	R元 511人	⇒	R3	1,328人
○「農福連携」マッチング数(累計)	R元 3件	⇒	R3	9件

③林業・木材産業の多様な人材育成・確保

- ・「とくしま林業アカデミー」での即戦力となる人材育成や高校生等の林業体験・実習を林業体験林「フォレストキャンパス」にて実施
- ・林業従事者のキャリアアップのための研修を実施
- ・シニア層の方を対象とした「アクティブシニア植林隊」を育成



とくしま林業アカデミー

○新規林業就業者数(累計)	R元 218人	⇒	R3	298人
○「とくしま林業アカデミー」の修了者数(累計)	R元 52人	⇒	R3	83人
○林業リカレント教育修了者数(累計)	R元 67人	⇒	R3	170人

④水産業の多様な人材育成・確保

- ・「とくしま漁業アカデミー」で次代の浜を支える担い手を育成
- ・漁家子弟のアカデミー研修生に対し本県独自の支援制度を創設
- ・アカデミー卒業生や就業間もない青年漁業者の経営安定化を支援



とくしま漁業アカデミー

○新規漁業就業者数(累計)	R元 148人	⇒	R3	197人
○「とくしま漁業アカデミー」の修了者数(累計)	R元 15人	⇒	R3	22人
○水産業リカレント教育修了者数(累計)	R元 31人	⇒	R3	129人

①地球温暖化対策（適応・緩和）

- ・気候変動に対応した品種「あきさかり」や「阿波白秀」,
「ワカメ」の導入や, 熱帯果樹の栽培技術を研究
- ・森林の持つ多様な機能の維持・増進を図るため, 森林整備
を実施
- ・自然エネルギーを活用した発電施設の導入や木質バイオマ
スの利用を促進
- ・農業用廃プラスチックの県下統一処理と再資源化を図る取
組を支援



森林整備（本数調整伐）

○熱帯性果樹の栽培実証経営体数(累計)	R元	3経営体	⇒	R3	10経営体
○間伐等森林整備面積(R元年からの累計)	R元	1,107ha	⇒	R3	3,215ha
○バイオマス利活用モデル地区数(累計)	R元	38地区	⇒	R3	40地区

②鳥獣による被害の防止

- ・狩猟の知識, 実践的な捕獲技術を学ぶ「とくしまハンティ
ングスクール」を実施し, 次世代狩猟者を育成
- ・集落ぐるみで防護や追い払い, 捕獲等の対策を行い, 集落
全体の農作物被害ゼロを目指す「被害ゼロ集落」を育成
- ・「阿波地美栄まつり」の開催や「阿波地美栄×狩猟フェス
タ」のオンライン開催により, 県産ジビエの消費拡大や販
路開拓を実施



とくしまハンティングスクール

○とくしまハンティングスクールの受講者数(累計)	R元	20人	⇒	R3	39人
○野生鳥獣による農作物被害額	R元	- 割減	⇒	R3	0.3割減
○「阿波地美栄」取扱店舗数(実数)	R元	43店舗	⇒	R3	53店舗

③食育・木育と地産地消の推進

- ・「野菜たっぷり料理レシピコンクール」や「親子オンライ
ン料理教室」を開催するとともに, 「食育推進月間(6月)
・地産地消月間(9月)」では食育推進啓発活動を実施
- ・県内小学校において「花育授業」を実施, 県産花きを活用
し, 家庭内消費拡大に向けた「オンラインワークショップ」
を開催
- ・「徳島木のおもちゃ美術館」での県産材の魅力体験や
「おもちゃ芸員」により徳島ならではの木の文化を発信
- ・木育の普及啓発を行う「木育インストラクター」を養成



野菜たっぷり料理
レシピコンクール

○ジュニア・若手食育リーダー数	R元	264人	⇒	R3	450人
○県産食材供給量(学校給食、社員食堂、福祉施設給食等)	R元	2,513万円	⇒	R3	2,375万円

④地域で育む農山漁村づくり

- ・ 農業農村整備事業のため、自然環境調査に基づく環境に配慮した事業計画を作成
- ・ 県内小学校で田んぼや農業用施設の持つ多面的機能を学ぶ出前授業を実施
- ・ 農山漁村の地域リーダーである「ふるさと水と土指導員」の育成や活動を促進
- ・ 森林ボランティア団体等による県民参加型の森づくり活動の支援、大学等の体験林「フォレストキャンパス」の利活用など県民総ぐるみの森林づくりを推進

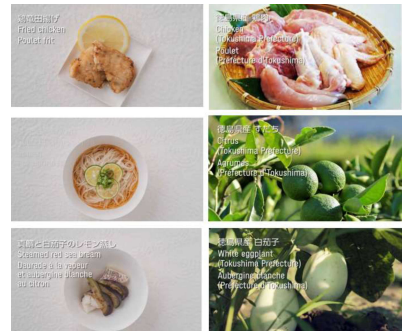


県民参加型の森づくり活動

○自然環境調査に基づく事業計画策定地区数(累計)	R元	66地区	⇒	R3	74地区
○田んぼの学校等の環境学習の開催日数(累計)	R元	34日	⇒	R3	46日
○カーボン・オフセットに基づく森づくり企業・団体数(累計)	R元	158企業・団体	⇒	R3	165企業・団体

⑤安全・安心な食料の安定的供給

- ・ 「エコファーマー」や「有機JAS」の認証、環境負荷低減に資する技術の普及を推進
- ・ 安全・安心で持続性の高い農産物の需要拡大に対応するため、「とくしま安²GAP農産物認証」や更に高い水準のGAP認証取得支援
- ・ 「GAP認証農産物」や「有機農産物」など、持続性の高い生産方式で栽培される「エシカル農産物」の消費を拡大するため、東京オリンピック・パラリンピックへの食材提供や「オーガニック・エコフェスタ」等でのPRを実施
- ・ 安全・安心な県産畜産物を提供するため、飼養衛生管理基準に基づく衛生管理基準の向上、「畜産GAP」,「農場HACCP」の認証取得を支援



東京オリンピック・パラリンピック競技大会への食材提供

○エシカル農産物の生産面積	R元	1,531ha	⇒	R3	1,787ha
○国際水準GAPの認定件数(累計)	R元	14件	⇒	R3	22件
○畜産GAP・農場HACCP認証等取得件数(累計)	R元	12件	⇒	R3	14件